

平成21年度学校体育振興事業

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」

研究報告書

ふりがな 学校名	とくしましつだちゅうがっこう 徳島市津田中学校
-------------	----------------------------

校長名：佐藤 利弘

所在地：徳島県徳島市津田西町2丁目2番
14号

電話番号：088-662-0054

誰でも取り組めるダンス指導法に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校には、バレーボールコート1面だけの小さな体育館しかなく、器具・用具も確保されていないため、授業や部活動に支障をきたしている。

この度、武道必修化となるが、本校では武道場も用具もないため、そのような状態でも指導できる内容と指導法を工夫しなくてはならない。平成24年度には新体育館が建設される予定なので、効率的な指導ができると期待している。

このような中でも、生徒は運動が大好きで、約60%が運動部に所属しており、体育の授業にも意欲的に参加している。

生徒たちのダンス経験は少ないが、ダンス授業で最も大切な「素直で心が解放されていること、学級の間関係がよいこと」という条件が満たされている学年、学級が多い。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
学級数	4	3	4	2	13	
生徒数	男	68	59	71	5	203
	女	68	59	73	1	201

教員数26名（保健体育科3名）

武道・ダンスの授業の状況

領域:武道

領域の内容:剣道・すもう

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	4	4	4	0	12	
担当教員数	2	2	2	0	6	
(外部指導者)	0	0	0	0	0	
生徒数	男	68	59	71	5	203
	女	68	59	73	1	201

領域:ダンス

領域の内容:創作ダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	9	9	9	0	27	
担当教員数	2	2	2	0	6	
(外部指導者)	0	0	0	0	0	
生徒数	男	68	59	71	5	203
	女	68	59	73	1	201

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

ダンスは、豊かな表現力とコミュニケーション力を育てることができる素晴らしい領域であるが、生徒も教師も自信が持てず、消極的になりがちであった。そこで、ダンスの既成概念を取り払い、「走ってもダンス、跳んでもダンス、何でもダンス」という言葉のとおり、簡単で楽しく誰でも踊れるものである、という意識改革から始めた。

「ダンスがこんなに激しいとは思わなかった」という生徒の言葉のように、想像以上に運動量が多く、無意識のうちに体力づくりにも貢献できた。生徒たちが全力で取り組み、汗と笑顔でいっぱい授業を展開することができたことは、教師にとっても楽しく充実した時間となり、教師の意欲を高めてくれた。

また、教師の連携については、男性教師がいっしょに踊ることによって、生徒たちの喜びや意欲をさらに高めることができた。そして、一人ひとりの生徒を理解しているため、適切なサポートや言葉がけができた。今後、男性教師がTTの主となって授業経験を積むことによって、指導技術が身に付いていくと思われる。

1 研究主題等

(1) 研究主題

ダンスを専門とする保健体育教師と指導未

経験の教師の連携のあり方

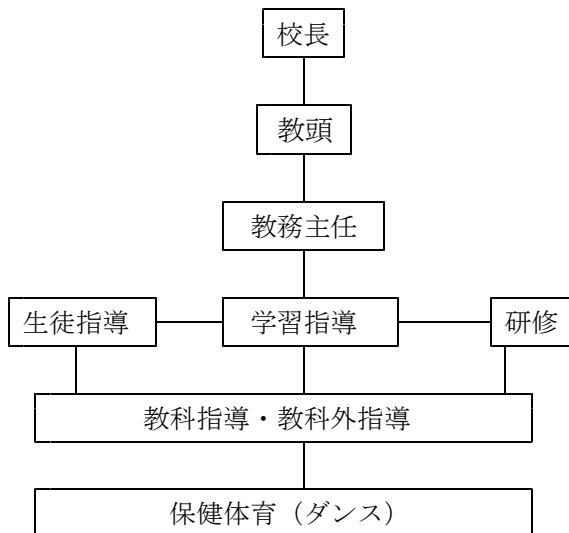
(誰でも取り組めるダンス指導法の研究)

(2) 研究主題設定のねらい

新学習指導要領実施にあたって、全ての保健体育教師（男性を含む）がダンス授業を担当しなくてはならなくなる。しかし、本県では、「指導のしかたがわからない」、「教材研究が大変である」、「踊ることが苦手である」等の理由から、避けて通ってきた教師も多く、男性教師に至ってはほとんどが未経験で、必修化に不安を感じている実態がある。

そこで、経験豊富な女性教師と男性教師がTTを組み、協力して指導法を研究することにした。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成21年度	年間計画に従って、9月中旬より9時間の単元を組んだ。県教委・県女子体育連盟主催のダンス講習会で提案された「初めて創作ダンスを学ぶ学年のための単元計画と指導法」を参考に、生徒の心を解放し、踊る楽しさや喜びを味わうとともに、仲間とのかかわりを広げ深めることのできる授業をめざして、研究を進めた。同時に、指導未経験の教師が、上記の目標を達成できる授業を展開するための研究に着手した。
	本年度は、経験の豊富な教師が中心に授業を進め、未経験の教師は生徒と共に踊ったり、サポートしたりしながら、授業のノウハウを体得することにした。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 単元計画の組み立て方

① 取組

初めて取り組む生徒に必要な不可欠と思われる題材は何か、それを生徒の発達に即した順序に組み立てるにはどうすればよいかについて研究した。

初めて指導する教師にとって、取り組みやすい題材について検討を重ねた。

② 成果・課題

生徒も教師も取り組みやすい題材として、導入に既習の学習の定形的なダンスを行うことにより、友だちとのかかわりを感じながらリズムに乗って踊る楽しさを味わわせることができたことで、創作ダンスに自然に進むことができた。

作品づくりは、「スポーツ」や「掃除」のように動きをそのまま使える具象的な題材にしたので、生徒の精神的負担がほとんどなく、笑顔が絶えなかった。

時間	学 習 内 容	ね ら い
1	ウォームアップ フォークダンス	友だちいっぱい見つけよう
2	8 8 4 4 2 2 1 1 1 1	ダイナミックに動こう
3	新聞紙になって	なりきろう
4	走ー止	ぴたっと止まろう
5	走ー跳ー転	イメージを持って 思いっきり動こう
6	お掃除大好き デッサン 作品づくり	動きを見つけよう
7		リズムや高さ・方向 等の変化、道具の 使い方の工夫をしよう
8		
9	発表会	パワー全開

* 校外の発表会に出るため、作品づくりを多くとった。

* 題材は「掃除」と「スポーツ」のどちらかを選択。

(2) 「踊る楽しさを味わい、仲間とのかかわりを大切にするダンス学習」の習得

① 取組

ダンス学習の目標や内容、授業の進め方等について共通理解を図り、言葉かけや太鼓の叩き方などは、授業を観察することにした。

いろいろな友だちとかかわりあえる振り付けや場面を多く設定した。

② 成果・課題

生徒は、みんなで踊ることの楽しさや喜びを全身で表現し、仲間と協力しあい、互いのよさを認め合って、グループ活動ができた。

未経験の教師は、生徒といっしょに踊ったり、観察したりすることにより、生徒の気持ちを理解しながら指導に携わることができた。

(3) 外部指導者（大学生）との連携

(現代的なリズムのダンス)

① 取組

2年生の総合的な学習の時間における男女共習のダンス講座では、大学生と連携し、生徒の希望するヒップホップダンスに取り組んだ。

② 成果・課題

独特のリズムと体の使い方が特徴的なダンスなので、専門の訓練を積んだ大学生の指導は効果的であった。生徒たちは目を輝かせながら、あこがれのダンスに挑戦し、基本を学ぶことができた。

ただし、ヒップホップは難しく、まとまった時間を要するため、授業のある大学生との連携は難しかった。

3 研究成果の普及

県女子体育連盟と県教育委員会が連携して講習会を開催した。また、県中学校保健体育教育研究大会における実技講習会では、全県の体育教師が受講し、大きな成果があった。

4 今後の展望

今年度は、基本的に女子のみの授業となったが、来年度は男女共習の授業ができるように、年度始めに年間計画や担当教員の配置等、配慮しなければならない。また、全ての保健体育教師が積極的にダンス指導に取り組もうとする意識を持つことが最初の1歩である。

5 授業風景



助言する男性教師



ともに踊りながら指導する女性教師



「先生、私たちの作品見てください！」